

令和5年度 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 三輪 颯 (基盤整備班主幹 戸田久雄)	内線	4003 (4041)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
ほ場整備	とが地区 農地整備事業	朝来市和田山町東和田ほか	11.4億円	-	令和6 (2024)年度	令和12 (2030)年度
事業目的			事業内容			
本地区は、朝来市中心部の東約4kmに位置し、約50年前にはほ場整備済であるが、用排水施設が老朽化し農家の減少・高齢化が進む中、農業生産の効率性を高め担い手の経営拡大を図るため、農地の再整備を行う。			・区画整理 34.6ha ・事業主体 兵庫県 [負担割合 国 :55.0%、県 :27.5% 市 :10.0%、地元 :7.5%]			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	施設が老朽化し維持管理に相当な手間が掛かっているほか、湧水のため土地が軟弱化して大型機械が進入できないほ場もあり、今後効率的な営農を行うためには区画の拡大や用排水の分離・用水のパイプライン化等の2次整備が不可欠となっている。					
	現状		計画			
	ほ場条件	区画 : 30a、用水路 : 開水路 排水路 : 開水路、道路 : 3~4m	区画 : 60a、用水路 : パイプライン 排水路 : 開水路+一部管排水 道路 : 4~5m			
	農業経営体	個人 : 28戸 (8.9ha) [担い手] 集積率 75.6% 農事組合法人 : 1法人 (24.2ha) 株式会社 : 1法人 (2.3ha) 認定農業者 : 2人 (1.1ha)	個人 : 4戸 (1.4ha) [担い手] 集積率 96.0% 農事組合法人 : 1法人 (25.1ha) 株式会社 : 1法人 (6.5ha) 認定農業者 : 1人 (1.6ha)			
	農業生産 (主なもの)	水稻 : 22.0ha、唐辛子 : 0.1ha 黒枝豆 : 0.1ha、黒大豆 : 0.1ha	水稻 : 28.7ha、唐辛子 : 2.5ha 黒枝豆 : 1.0ha、黒大豆 : 1.0ha			
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	当地区では主に水稻（コウノトリ米）を中心に作付されてきたが、ほ場整備により水稻のほか黒大豆、黒枝豆、唐辛子（ハバネロ。野生動物忌避剤の原料）の生産を拡大し、米は学校給食及び海外へ販売拡大、黒大豆・黒枝豆は直売、唐辛子は地元で加工して独自の販売ルートを確認するなど攻めの農業に取り組むこととしており、ほ場整備の実施が有効である。 費用便益比 B/C=1.3 (1,387百万円/1,029百万円)					
	主な効果項目	年効果額	説明			
	作物生産効果 (農作物生産量の増減)	4,527	水稻 108.0t → 143.8t 唐辛子 2.0t → 50.0t 黒枝豆 1.0t → 10.0t 黒大豆 94kg → 940kg			
	営農経費節減効果 (営農経費の増減)	76,242	10a当たりの作業時間 水稻 14.6hr → 10.2hr 唐辛子 1,062.8hr → 1,008.3hr 黒枝豆 80.3hr → 26.6hr 黒大豆 30.9hr → 28.5hr			
	維持管理費節減効果 (施設の維持管理費の増減)	△3,085	ポンプ施設整備による水路等の管理費増 2箇所			
	耕作放棄地防止効果	2	区画整理に伴う耕作放棄の発生を抑制			
	国産農産物安定供給効果	7,046	国産農産物の安定供給増			
	地権者の合意形成が図られており、担い手の営農意欲も高まっている。					
(3) 環境適合性	環境調査に基づく希少生物への配慮として、湿地の表土を再利用するとともに、両生類や昆虫類に対しては施工時の一時避難並びに棲息空間確保のため排水路の一部によどみや水路から這い上げられる構造を創設するなどの対策を講じる。					
(4) 優先性	地域農業の担い手の営農意欲は旺盛で規模拡大志向であるが、区画が狭小のため大型農業機械の導入に適應しておらず、用排水施設も老朽化が進展し規模拡大を阻害するほか、湧水のため土地が軟弱化して機械の進入が困難な農地もあることから、早急に再整備を行う必要がある。					
【事後評価】 対象・対象外	事業計画において営農計画の似通ったたつの東部地区において事後評価を実施するものとし、本地区については事後評価の対象外とする。					

ほ場整備事業 とが 東河地区〔朝来市〕

目的

本地区は、朝来市中心部の東方約4kmに位置し、県営ほ場整備事業和田山地区(S41～S42)により標準区画30a(100m×30m)で整備された区域であるが、整備後50年以上が経過し施設の老朽化が進む一方、農家の減少・高齢化も進展しており、用排水の再整備と一体的に大区画化を図り、農業生産の効率を高めるとともに担い手への農地集積を進め、農業経営の拡大と安定を図る。

位置図



事業概要

所在地: 朝来市 和田山町 東和田、久田和、宮

総事業費: 11.4億円

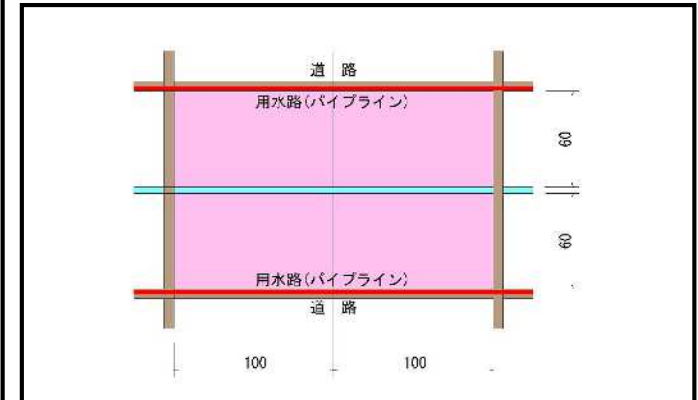
事業主体: 県

事業期間: R6～R12

事業概要: 区画整理工34.6ha

費用便益比B/C: 1.3

標準区画割図



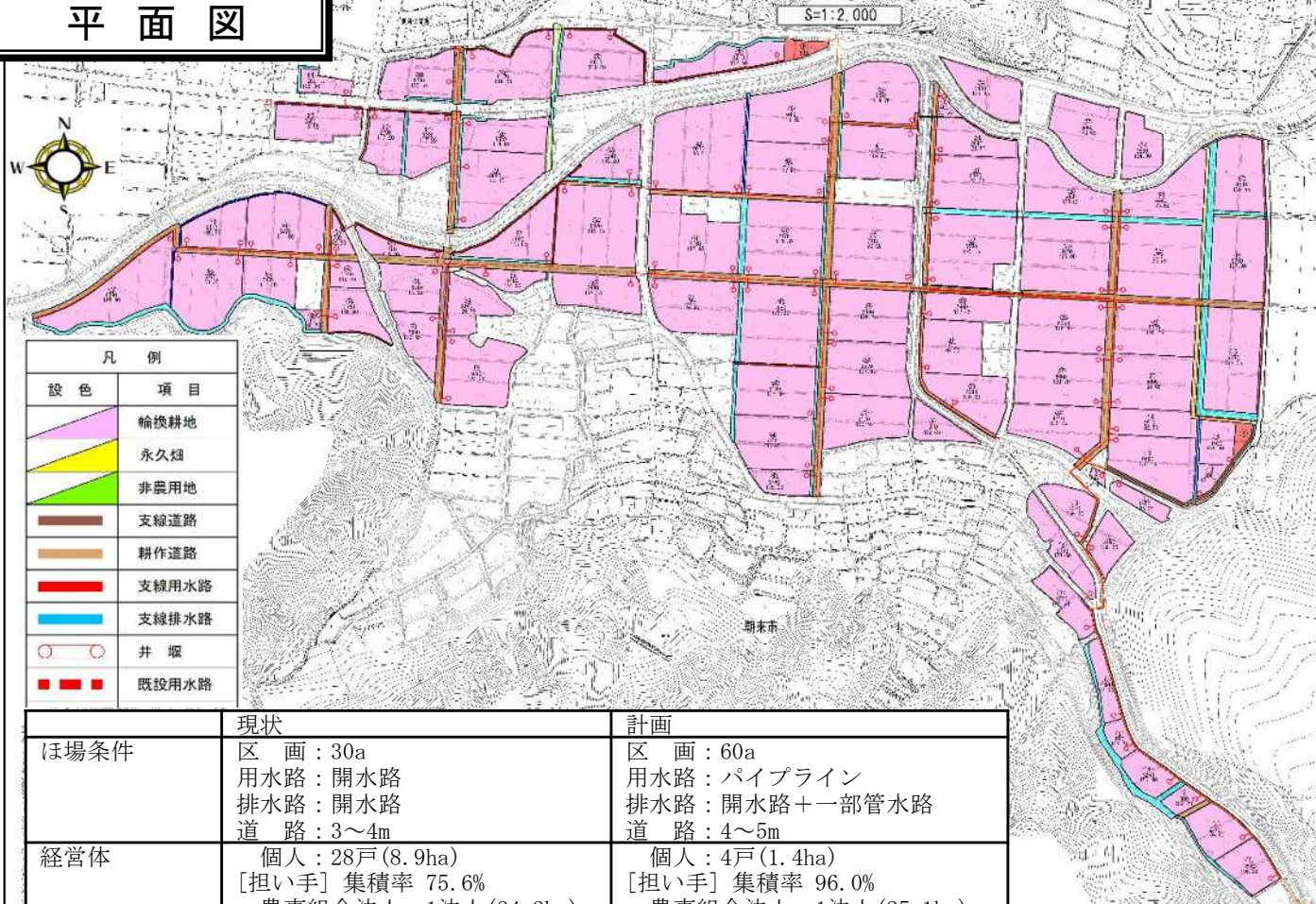
工程表

工種	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実施設計	■						
区画整理		■	■	■	■	■	
その他							■

事業の必要性・有効性

当地区では主にコウノトリ米が生産されてきたが、基盤整備により、米のほか黒大豆、黒枝豆、唐辛子(ハバネロ。野生動物忌避剤の原料)の生産を拡大し、米は学校給食及び海外へ販売拡大、黒大豆・黒枝豆の直売、唐辛子は地元で加工して独自の販売ルートを確認するなど攻めの農業に取り組むこととしており、ほ場整備の実施が有効である。

平面図



	現状	計画
ほ場条件	区画：30a 用水路：開水路 排水路：開水路 道路：3～4m	区画：60a 用水路：パイプライン 排水路：開水路＋一部管水路 道路：4～5m
経営体	個人：28戸(8.9ha) [担い手]集積率 75.6% 農事組合法人：1法人(24.2ha) 株式会社：1法人(2.3ha) 認定農業者：2人(1.1ha)	個人：4戸(1.4ha) [担い手]集積率 96.0% 農事組合法人：1法人(25.1ha) 株式会社：1法人(6.5ha) 認定農業者：1人(1.6ha)
農業生産 (主なもの)	水稲：22.0ha、唐辛子：0.1ha 黒枝豆：0.1ha、黒大豆：0.1ha	水稲：28.7ha、唐辛子：2.5ha 黒枝豆：1.0ha、黒大豆：1.0ha

現況写真

老朽化した水利施設、用排兼用水路



地盤が悪い農地(作付け不可)



水位の遠方 監視・操作



法面の緩傾斜化 (ラジコン草刈り)



(1)費用対効果

①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
食料の安定供給の確保に関する効果	①作物の生産増に関する効果 ほ場整備により農業機械導入が可能になることや用排水路改良による反収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果
	②営農経費の節減に関する効果 区画拡大及び道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果
	③維持管理費の節減に関する効果 ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果
農業の持続的発展に関する効果	④耕作放棄の防止に関する効果 ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果
その他の効果	⑤国産農産物の安定供給に関する効果 国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果

②費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)		代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
					(百万円)	(百万円)	(百万円)	
ほ場整備	農地整備事業	①作物生産効果	74	農産物生産量の増加 唐辛子2.0t→50.0t	1,029	798	231	1.3
		②営農経費削減効果	1,248	労働時間の短縮 水稻14.6hr/10a→10.2hr/10a				
		③維持管費節減効果	△50	施設整備による管理費増 揚水機場(2箇所)の新設				
		④耕作放棄防止効果	0	将来発生が予測される耕作放棄を防止				
		⑤国産農産物安定供給効果	115	国産農産物の安定供給増				
		計	1,387					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
多面的機能の発揮に関する効果	①地下水のかん養 水田が水田として利用され湛水されることで用水の一部が地下に浸透し、地下水のかん養を促進する効果	○	区画整理
	②農地や農村における災害の抑制 用水路と排水路の分離、法勾配の改善(緩傾斜化)、畦畔の強化、ほ場の湛水量の増などが図られ、洪水の防止・軽減により農地・農業用施設、農村の災害を抑制する効果	○	区画整理 用排水路整備
農業の持続的発展に関する効果	③農村の活性化 農作業の省力化や生産拡大により、農業所得の向上や若い担い手の定着が促進され、農村が活性化する効果	○	区画整理
農村の振興に関する効果	④地域交通の利便性向上 農道の整備により農業交通が安全に通行でき、また生活道路を兼ねる農道については、地域の利便性・安全性が向上する効果	○	農道整備

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 当地区は約50年前に基盤整備が実施され(標準30a区画)、営農組合を中心に活発な営農活動が行われてきたが、用排水施設等が老朽化し維持管理手間が増大しているほか、軟弱地盤のため機械作業ができないほ場もあることから、用排水施設の早期改修に合わせて大区画化を図り、自動給水栓やICT農機の導入等と併せて農業経営を一気に拡大・安定を図ることとして、市へ強い要望が出されている(事前同意率100%)。 ➤ 整備後には高収益作物の作付を大幅に増大し、儲かる農業へ取組んでいく計画である。
-------	--